

2 調査会審議経過

国際問題に関する調査会

委員一覧 (25名)

会 長	松田	岩夫 (自民)	小林	温 (自民)	佐藤	雄平 (民主)
理 事	山東	昭子 (自民)	末松	信介 (自民)	直嶋	正行 (民主)
理 事	世耕	弘成 (自民)	中川	雅治 (自民)	藤末	健三 (民主)
理 事	野上	浩太郎 (自民)	二之湯	智 (自民)	前田	武志 (民主)
理 事	田村	秀昭 (民主)	長谷川	憲正 (自民)	浮島	とも子 (公明)
理 事	山根	隆治 (民主)	水落	敏栄 (自民)	澤	雄二 (公明)
理 事	加藤	修一 (公明)	大石	正光 (民主)	大門	実紀史 (共産)
	大仁田	厚 (自民)	大久保	勉 (民主)		
	岸	信夫 (自民)	工藤	堅太郎 (民主)		(16. 10. 12 現在)

(1) 活動概観

〔調査の経過〕

本調査会は、第161回国会の平成16年10月12日に設置され、今期3年間にわたる調査テーマを「多極化時代における新たな日本外交」と決定した。具体的な調査項目として、次の4つについて調査を行うこととした。

- ①「日本のアジア外交」（「日中外交の回顧と今後の課題」、「日韓連携の現状と今後の課題」、「日ASEAN連携に向けての課題」、「東アジア共同体構築に向けての課題」及び「東アジアにおける不安定要因の除去」）
- ②「日本の対米外交」（「21世紀における日米関係」及び「日米同盟と国連外交」）
- ③「日本の対EU外交等」（「拡大するEUの現状と今後の方向」及び「ロシア、アラブ諸国等との関係強化」）
- ④「国際社会の責任ある一員としての日本の対応」（「人間の安全保障の重要性」、「多様化し拡散する脅威への国際社会の対応」、「平和の構築に向けての対応」、「文化外交、民間外交の促進」及び「資源・エネルギー問題への取組」）

なお、第1年目は、このうち「日本のアジア外交」を中心に調査を行うこととし、加えて、「日本の対米外交」及び「日本の対EU外交等」についても調査を行うこととした。

第161回国会においては、1回の調査を行った。

11月24日に、「日本のアジア外交」のうち、「日中外交の回顧と今後の課題」について、毛里和子参考人（早稲田大学政治経済学部教授）及び莫邦富参考人（ジャーナリスト、作家）から意見を聴取し、質疑を行った。

〔調査の概要〕

「日本のアジア外交」

「日中外交の回顧と今後の課題」について、毛里参考人から、中国の国会、改革開放期の経済パフォーマンス、中国と外の世界、日中関係等について、また莫参考人から、日中問題の誤診現象、中国脅威論と日本脅威論、取り組むべき未来型のテーマ、課題としての日本のソフトパワーの低下問題等についてそれぞれ意見を聴取した。

続いて、委員から、日中相互理解促進のために行うべき中国国民への働き掛け、日中政府間信頼関係の現状の評価、歴史問題の解決のための具体的手段、対中ODAについての中国側の認識、中国と日本との共有文化の有無、中国の市民社会の状況及び市民社会化が政治に及ぼす影響、中国の所得格差の現状と解決策、東アジアコミュニティ構築における日米中関係の見方等について、質疑を行った。

(2) 調査会経過

○平成16年10月12日（火）（第1回）

- 調査会長を選任した後、理事を選任した。

○平成16年11月24日（水）（第2回）

- 理事の辞任を許可し、補欠選任を行った。
- 調査項目の選定について会長から報告があった。
- 参考人の出席を求めることを決定した。
- 「多極化時代における新たな日本外交」のうち、日本のアジア外交（日中外交の回顧と今後の課題）について参考人早稲田大学政治経済学部教授毛里和子君及びジャーナリスト・作家莫邦富君から意見を聴いた後、両参考人に対し質疑を行った。

〔質疑者〕世耕弘成君（自民）、直嶋正行君（民主）、加藤修一君（公明）、大門実紀史君（共産）、水落敏栄君（自民）、藤末健三君（民主）

○平成16年12月2日（木）（第3回）

- 国際問題に関する調査の継続調査要求書を提出することを決定した。